今津運動公園
インクルーシブな子ども広場づくり ワークショップ

第3回 NEWS

福岡市 住宅都市局 公園部 整備課

テーマ：今津運動公園の将来を描こう！

令和６年１２月１４日（土）

　最終回の３回目では、これまでに出た意見をもとに検討した２つの計画案を比べてみました。人気の遊具や豊かな自然、面白い地形などの現在の遊び場の良いところはそのままに、より「今津運動公園らしいインクルーシブな子ども広場」にするためのアイデアを出し合いました。また、再整備された遊び場について、訪れてもらうための工夫や今後の理想的な姿についても話し合いました。

前回の振り返り

　前回のワークショップでは公園内を１時間程度歩き（フィールドワーク）、感じたことをみなさんで話し合いました。

　築山を含め、今の「ちびっこ広場」のいいところを活かす意見が多く出ました。新しくインクルーシブな子ども広場になる「ちびっこ広場」を近接する駐車場とどのようにつなげるか、駐車場とちびっこ広場の間の植栽帯も活用してはどうかなどの様々な意見が出されましたが、大きく分けると以下のような意見となりました。

①今の自然や遊びの良い要素を十分に活かす
②周辺エリアとのつながりや回遊性を強化する
③居心地よく快適に過ごせ、公園に行きたくなる工夫を行う

■アンケート結果の紹介

　第３回ワークショップでは、話し合いに始まる前にこれまでにアンケートで寄せられた意見を参加者のみなさまに共有しました。以下に、ご意見を抜粋してご紹介いたします。

①今津運動公園の子ども広場のいいところとわるいところ
・いいところ：動物のオブジェ、砂場、自然、築山
・わるいところ：トイレ、まわりから見えにくい

②新しくなる今津運動公園の子ども広場にあったらいいモノやコト
現在ある遊具は残して新しい遊具ができたらいい／水遊びや五感を使った遊び／大人の見守りスペース／過敏な子どもの居場所／オムツ替えができるトイレ、ユニバーサルシート（ベッド）があるトイレ

③「誰もが自分らしく楽しく過ごせる子ども広場」はどういう場所
様々な居場所があり、自由に遊びを作れる場所／
ちょっとやんちゃな子どもでも白い目で見られない自由な場所／
子どもたちが学べるような遊具／自分たちで考えて遊べるような場所／１日ずっといて気持ちよく過ごせる場所／
昨今の子どもの閉塞状況を鑑みて、安全第一から冒険第一へ

ワークショップ全体の流れと当日のプログラム

■ワークショップ全体の流れ

第１回（済）
今津・今津運動公園を知ろう！
令和６年１０月１２日（土）
１０：００～１２：００

「**インクルーシブなこども広場**」ってなに？「**今津・今津運動公園**」はどんなところ？をお話ししました。
みなさんの「**こんな空間になったら**」「**こんな場所があれば**」を出し合って意見をまとめました。

第２回（済）
インクルーシブな子ども広場の方向性を考えよう！
令和６年１１月９日（土）
１０：００～１２：００

前回話し合った「**こんな空間**」「**こんな場所**」について事例写真を見ながら話し合いました。
その上で公園を歩き、そこでの「**過ごし方**」「**楽しみ方**」などを話し合いました。

第３回（今回）
今津運動公園の将来を描こう！
令和６年１２月１４日（土）
１０：００～１２：００

「**今津運動公園**」をみんなが「**行きたい**」「**使いたい**」などにするためには、どうしたらいいのか、みなさんの意見を元に作られた整備案を見ながらどういう活動ができるのかをみなさんで話し合いました。

■当日（12/14）のプログラム

10:00	はじめに
10:05	前回の振り返り
10:15	自己紹介
	ワーク①
10:20	公園プラン（案）の検討
11:10	〈休憩〉
	ワーク②
11:15	今後のあり方について考える
11:35	まとめ・写真撮影・閉会あいさつ
12:00	〈解散〉

ワークショップの意見交換のようす

公園プラン（案）の検討

これまでのワークショップでみなさまとまとめたインクルーシブな子ども広場の大きな方向性を踏まえ、計画の理念と方針を設定し、具体的な公園プラン（案）を検討しました。

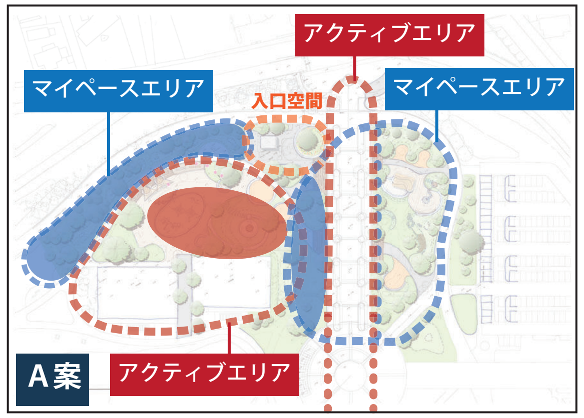
■計画の理念

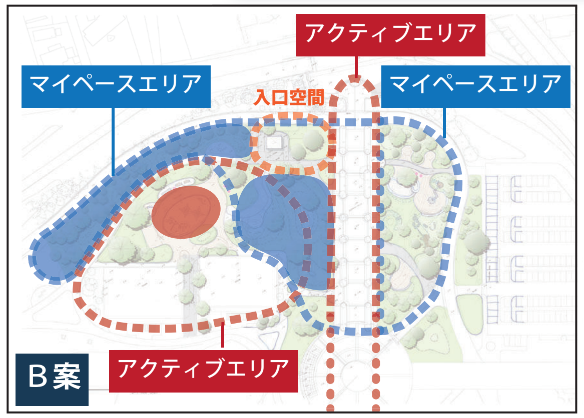
海・山に囲まれた今津の風景の中で
誰もが自分の過ごし方で楽しめる
インクルーシブな子ども広場づくり

■計画の方針

- 快適に過ごせるための配慮がある
- 今津の魅力を公園内につなげる
- 様々な利用者が同じ空間を共有し交流が生まれる

■ゾーニングの検討





凡例
- アクティブに過ごせる度合いが高いエリア
- マイペースに過ごせる度合いが高いエリア

- 「アクティブエリア」は、障害がある子もない子も、みんな元気いっぱい過ごすことができる場所です
- その周りを取り囲むように、自分のペースでのびのびと過ごすことができる「マイペースエリア」を配置しています
- A案は、現在の配置や動線をできるだけ活かし、現在のアクティブエリアの周りにマイペースエリアを分散配置します
- B案は、築山などの起伏のある緑地空間を広く確保するため、地形や動線を大きく見直しマイペースエリアの度合いを強化します
- 共通して東側の植栽帯にマイペースエリアを配置し、大小さまざまな円形の空間を少しずつ角度をずらしながら配置することで、人から見られることが落ち着かない子どもでも安心して過ごすことができる空間を確保します

■公園プラン（案）

※提示している図面は B案 です

みんなで向き合いながら「まわる」遊び

現在の地形のおもしろさを発展させた「すべる」遊び

既存トイレの改修

一般の高さの砂場と車いす対応の高さの砂場を併設した「砂」遊び

今津で拾ったどんぐりなどを使ってクラフト体験ができるあずまやとテーブル

幅と奥行きの広い縁台ベンチ

離れた相手と話ができる伝声管で「音」遊び

手押しポンプで水に「ふれる」遊び

緩やかな起伏のある芝生

幼児用ブランコで「ゆれる」遊び

既存の遊具

ネットに寝転がって「ゆれる」遊び

児童・幼児用ブランコで「ゆれる」遊び

今回のワークショップでの意見
- 現在のウォーキングコースのルート変更の検討
- 今津の自然を感じることができる展望スペース

●：動物のオブジェ →再配置

凡 例

	：ハード系舗装
	：土舗装
	：砂場
	：張芝

■意見交換

●動線／空間構成について
- アクティブエリアとマイペースエリアで空間コンセプトを分けているので気分により過ごす場所を選べる選択肢があって良い
- 親目線で子どもがパッと出て行き危ないのでフェンスや手すりを設置した方が良い
- 今の周回園路の変更について、コースの距離や園路沿いに設置している健康遊具の連続性が確保され、今の利用者が使えなくならないような動線案があれば良い
- 初めて来た方にもわかりやすい情報を示すサインの設置は必要ではないか
- 海が近いロケーションを活かして、築山に展望スペースを設けてはどうか
- 車いすの方が高いところから見晴らす経験ができて良い

●見守り／暑さ対策について
- 日よけは公園利用者が増えれば増えるほど休む人も増えてくるので多すぎることはない
- 遊び場を日陰に
- 東側のエリアにも見守りスペースがあると良い
- 感染症が流行した場合、空間を離す必要があるため分散された多くの休める場所がある方が良い
- 色々な人の視線が気にならないような形になっているのがとても良い
- 分散させることで周りで足んでいる子にも影響を与えることがない場所にしたい
- 居場所をつくる、見守りの場所をつくるという点で各遊び場に円形のベンチを提案していると思うが、死角ができて見えにくい場所があると安全面で心配（見晴らしの確保が重要）

●遊びについて
- 障がいがあってもなくても自分なりの挑戦ができる（安全に失敗できる）
- 手押しポンプは面白そう。手を挟むリスクをクリアして導入してほしい
- 砂場は「山砂」「海砂」とバリエーションがあったら面白い。貝殻を探せる砂など、今津の雰囲気を感じることができる
- リボンスライダー（築山を利用した地形を活かしたすべり台）は公園の目玉になると思う。無限にどこからでも滑れるというものは楽しそう
- 花の香りや木製歩道による踏んだ際音が変わる「五感で楽しめる」よう計画に意識を感じる

■まとめ

意見交換を踏まえ、さらに以下のような内容に注意して公園プランを改善していきます。

①もともとあるウォーキングトリムコースを分断せずに、目的の場所にたどりつける動線

②遊具、日よけ、見守りスペースをセットで考える
警戒警報が出ることもある夏場の使い方を考えると、タープの配置に工夫が必要

③築山からの「見え方」「感じ方」に工夫が必要
サイン（イラスト入りの標識）を使えば、松林の向こうにある海を感じることができる。トイレの場所や園内の注意事項などを分かりやすく示した案内表示を充実させるべき

現在の景石を再配置

歩いた時に木質素材の音が分かる舗装（A案にて図示）

今津の自然などを感じることができるサイン

手触りや足の感覚で木素材に「ふれる」遊び

日よけのタープの設置（A案にて図示）

今後のあり方について考える

これから新しくなる今津運動公園のインクルーシブな子ども広場に期待することをみなさんで話し合いました。

今津の魅力を発信できる場所になってほしい

中高生の居場所

ドングリレース

舗装に貝殻を埋め込むイベント

女の子の視点を公園内に積極的に取り入れてほしい

落ち葉プール

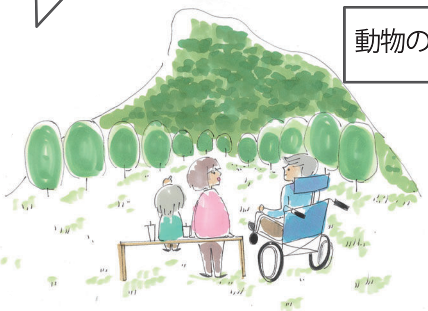
交流の場になって人のつながりができる場所になってほしい

日陰の下で、知らない子同士がゲームを通じて話題ができるような（時代の流れに沿った）空間

動物のオブジェをきれいに磨いたり絵を描いたりするイベント

オープニングイベントや工事現場体験会

障がい者への物理的な対応と社会的なバリアの解消にもっと取り組んでほしい



■ワークショップのようす

まとめ、講評

株式会社ランドスケープむら 徳永氏

今回の計画では、「子ども広場」を中心として今津運動公園、今津 (地域) を同心円の広がりと捉えています。

「見え方」「遊び方」「何ができるか」という視点から、輪の中心の「子ども広場」をどうデザインするかを考え始め、「今津運動公園」まで視野を広げると「子ども広場」周辺の芝生広場などでの「過ごし方」へと考えが進んでいきました。さらに「今津（地域）」に輪を広げると福祉村や松林、海などが見えてきて、地域の「感じ方」につながると分かりました。この３つの同心円の重なりが話し合いの軸となり、多くの貴重な意見をいただくことができました。

「インクルーシブな子ども広場」の完成後、この広場の使い方がどのように変わったのかを、ワークショップの成果としてお伝えし、今後につなげていければと思います。

今後のスケジュール（予定）

基本設計：2025 年 1 月頃まで

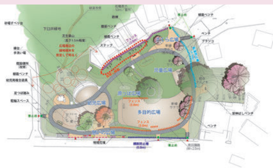
実施設計：2025 年 6 月頃まで

工　　事：2026 年 3 月頃まで

供用開始：2026 年 4 月頃から

リニューアルする新しい子ども広場の完成をお楽しみに！

今回のみなさまのご意見を反映した「リニューアル案」を、来年1月の号外ニュースでお知らせいたします。



リニューアル案の図面やＣＧパースのイメージ

これまで貴重なご意見をいただいた、ワークショップに参加されたみなさま、またアンケートにお答えいただいたみなさま、ご協力大変ありがとうございました！

［担当・お問い合わせ］
福岡市住宅都市局公園部整備課 甲斐・中川
TEL：092-711-4410　MAIL：kai.k07@city.fukuoka.lg.jp